

題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。



鹿沼市立栗野中学校 (氏名) 萩原 歩夢

「核と人間は絶対に共存できない。」

私は今回の派遣事業を通して、強く実感しました。

日本は世界で唯一の被爆国です。日本に生きる私たちは、1人1人がもっと「平和」について考えるべきだと思います。私の中では、平和とは生きている人みんなが幸せで、毎日、夢や希望であふれていることだと思います。また、原子爆弾は多くの尊い命と人々の生活を奪う恐ろしい兵器であることを忘れてはいけないと思います。家族や友達、周りの人を大切にし、思いやりの心をつねに持ちたいです。そして、今回学んだことを心にとどめるだけでなく、周りの人にもしっかりと伝え、核兵器のない世界をつくるために尽力したいです。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立栗野中学校 (氏名) 萩原 歩夢

ロシアのウクライナ侵攻は今も続いています。ウクライナの領土がロシアに編入されるという新たな動きの中で、多くの人々の命が奪われている現状があります。また、ロシアが核の存在を示唆するような動きを見せ、日本で起きた惨劇が繰り返される危険性もあります。私は、この侵攻の原因は話し合いではなく、武力で解決しようとしていることにあると考えます。さらに、私たちもロシアのウクライナ侵攻に関係ないとはいえません。私たちは戦争や核に対して絶対的に「No」という意識をもつことが必要です。そして、侵攻を抑止できるような行動を取り、世界的な緊張を緩和する手助けをしたいです。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立栗野中学校 (氏名) 萩原 歩夢

今の日本は戦争が行われていたころと比べれば平和だと思います。この平和は戦争や核がないことでもたらされるものだと考えます。しかし、平和とはそういうことだけではないと思います。人と人が争うこと、誰かが他人を傷つけることも平和をおびやかすものなのではないでしょうか。平和と平和ではない状況は紙一重だと思います。小さなほころびが大きな過ちにつながってしまいます。だからこそ、「戦争」などのスケールの大きなものに目を向けるだけでなく、身近なことから気をつけることが大切です。人類の様々な面での進化はよかったこともあれば、悪いところもあります。そういったところに目を向け、日本の平和を維持したいです。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立栗野中学校 (氏名) 萩原 歩夢

私には今年 97 歳になる曾祖母がいます。その曾祖母に戦争について聞いたことがあります。直接、被害は受けなかったそうですが、飛行機の轟音を聞くたびに、激しい恐怖を感じたそうです。このような体験を後世に絶対にさせないことが私たちの使命です。また、国際的、社会的な状況が引き起こす争いもありますが、人と人との対立による争いも多くあると思います。そのような対立は防げるものであり、防がなくてはならないものでもあります。このことから、平和について考えてみると、人それぞれ平和の捉え方が違いますが、まずは 1 人 1 人が平和と向き合うことが大切なので、私自身も意識したいです。